

「第1回がん支えあいの日」応援チャリティイベント in 京都 報告書

日時 平成21年5月16日(土) 14時～16時
主催 独立行政法人国立病院機構京都医療センターリボンズハウス
共催 NPO法人キャンサーリボンズ スター混声合唱団
会場 独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校体育館
参加者 約400人(患者さん、ご家族、地域の方、学生、医療従事者等)

プログラム

14:00 開会 挨拶 国立病院機構京都医療センター院長 藤井信吾氏

14:05 キャンサーリボンズ及び「がん支えあいの日」の趣旨・挨拶
NPO法人キャンサーリボンズ副理事長 岡山慶子氏

14:15 鼎談 山田邦子さん
藤井信吾院長、岡山慶子副理事長

がんを体験した山田邦子さんからのメッセージ～ がんと向き合ううえでの家族や仲間(がん友)が本当の支えとなったこと、そして医師や看護師など医療従事者への感謝とともにさらに期待したいこと～ で始まり、これを受けて、藤井院長と岡山副理事長からは、患者さん、医療従事者、さらには社会全体で新しいがんケアのネットワークをつくることの大切さが提言された。その日会場に集った一人ひとりがネットワークの一員であるとの共感が生まれ、また、ユーモアを散りばめながらの山田邦子さんの語り笑いを誘った。こうして会場は、終始楽しくアットホームな雰囲気包まれていた。

14:45 トークショー&コンサート
スター混声合唱団
(山田邦子さん、倍賞千恵子さんはじめ総勢21人)

スター混声合唱団によるメドレーで幕を開けたステージは、会場とのかけあいもまじえながら、あっという間に時間が過ぎた。



続いて看護学生約60名も一緒にステージに立って、がん支えあいシンボルソング「あなたが大切だから」(作詞・作曲:山田邦子さん)をお披露目した後、会場の参加者と歌の練習、そしてコンサートはクライマックスを迎えた。



山田さんが満員の客席の間を回りながら歌をリードし、車椅子で参加した入院患者さん、外来の患者さん、ご家族、近隣の皆さん、学生、病院スタッフ、スター混声合唱団の皆さん、会場の全員がつながる「大合唱」となった。

16:00 閉会 挨拶 国立病院機構京都医療センター研究検査科長 土屋宣之氏